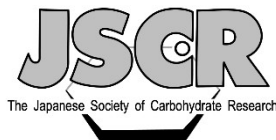


JSCR Newsletter



日本糖質学会会報
JSCR Newsletter published by
The Japanese Society of Carbohydrate Research

2026年度(第29回)日本糖質学会奨励賞 受賞者決定

日本糖質学会授賞選考委員 藤本 ゆかり

安藤 弘宗

木下 聖子

松尾 一郎

本年度、第29回日本糖質学会奨励賞が決定しましたのでお知らせします。

この度は糖質学会会員の皆様から優れた候補者の推薦をいただきありがとうございました。選考委員による厳正な審査を経て、理事会にて下記の2名を受賞者として決定いたしました。

受賞者には心からお祝いを申し上げますとともに、今後の益々のご活躍を期待いたします。なお、授賞式および受賞講演は第45回年会(福岡)にて行う予定です。詳細が決まりましたらお知らせします。

奨励賞

岡谷 千晶(国立研究開発法人産業技術総合研究所 細胞分子工学研究部門)

糖鎖創薬を志向したマルチモーダル糖鎖空間オミクス基盤の構築と心疾患研究への展開

新地 浩之(鹿児島大学大学院理工学研究科工学専攻)

糖鎖修飾ナノ粒子を基盤とする薬物送達システムの構築とナノワクチンへの応用

(50音順、敬称略)

CONTENTS

- | | | |
|----------------------------|----------------------|-------------|
| ■奨励賞 受賞者決定 | ■木幡陽先生を悼む | 山下克子・古川 清◎6 |
| 藤本ゆかり・安藤弘宗・木下聖子・松尾一郎◎1 | ■JCGG シンポジウム 開催予告 | 山田修平◎8 |
| ■第45回日本糖質学会年会 | ■Glyco28 開催案内 | 鈴木 匡◎9 |
| 竹川 薫◎2 | ■理事会議事録 | ◎10 |
| ■「令和8年度日本糖質学会総会」開催のお知らせ ◎4 | ■理事・評議員・名誉会員・顧問・維持会員 | ◎11 |
| ■神奈木玲児先生を偲ぶ | 北島 健◎5 | |

第 45 回日本糖質学会年会

1. 開催日および場所

開催日 2026 年 9 月 14 日(月)～16 日(水) (3 日間)

開催場所 パピヨン24

〒812-0044 福岡市博多区千代1丁目 17-1

2. 主催者および組織

主催 日本糖質学会

代表者 第 45 回日本糖質学会年会

世話人代表 竹川 薫(九州大学大学院農学研究院発酵化学分野 教授)

世話人副代表 沖野 望(九州大学大学院農学研究院海洋資源化学分野 教授)

組織委員

世話人(五十音順)

石橋洋平(九大院・農)、岡 拓二(崇城大・生物生命)、角田佳充(九大院・農)、川井隆之(九大院・理)、
平井 剛(九大院・薬)、藤田清貴(鹿児島大・農)、保坂善真(九大院・農)、三浦佳子(九大院・工)

Executive Board

伊東 信(九大院・農)、隅田泰生(鹿児島大院・理工) (五十音順)

Advisory Board(五十音順)

安藤弘宗(岐阜大糖鎖生命コア)、北爪しのぶ(福島県医大・保)、木下聖子(創価大・理工)、
藤本ゆかり(慶應大・理工)、松尾一郎(群馬大・理工)

連絡先・事務局: 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 九州大学大学院農学研究院海洋資源化学分野内
第 45 回日本糖質学会年会事務局(担当: 沖野 望)

年会事務局 E-mail: nokino@agr.kyushu-u.ac.jp

3. 共催または後援団体など

共催: 九州大学農学研究院、日本生化学会、日本薬学会、日本応用糖質科学会

協賛: 公益財団法人野口研究所、有機合成化学協会、公益財団法人水谷糖質科学振興財団

後援: 日本農芸化学会、日本分子生物学会、日本生物工学会、日本ケミカルバイオロジー学会、
日本分析化学会

4. 会議の目的

第 45 回日本糖質学会年会を福岡市で開催させて頂けることを大変光栄に存じます。2000 年以降、本年会は九州において 3 回(2007 年福岡、2012 年鹿児島、2021 年鹿児島)開催されてまいりましたが、福岡での開催は 19 年ぶりとなります。このような歴史ある学会を再び福岡の地で開催できますことを大変光栄に存じますとともに、組織委員一同、皆様にご満足いただける年会となるよう鋭意準備を進めております。

現在、糖質科学は、糖質・糖鎖の構造解析、合成、代謝、酵素機能の解明といった分子基盤研究の飛躍的な進展により、大きく発展しております。近年では、MS、NMR、Cryo-EM などの高度分析技術に加え、AI を活用したデータ解析の進展により、従来解明が困難であった分子機構の理解が急速に進み、新たな知見が次々と創出されています。さらに本分野は、化学、生化学、微生物学、合成生物学、食品科学、材料科学など多様な領域が交差する学際的研究分野でもあります。本年会が、このような分野横断的特性を活かし、異なるバックグラウンドを有する研究者間の交流を促進し、新たな連携や研究の芽が生まれる場となることを願っております。

加えて、本年会は次世代を担う若手研究者・学生の育成の場としての役割も重視しております。活発な議論や発表の機会を通じて、研究者としての視野を広げるとともに、新たな挑戦へとつながる契機となることを期待しております。また、糖質科学は医療、創薬、食品、バイオ産業など幅広い分野への応用が期待されており、本年会が産学連携の促進や社会実装への橋渡しとなることも重要な目的の一つと考えております。さらに、国際的な研究動向も踏まえ、本分野の国際的プレゼンス向上に寄与する場となることも期待しております。

以上の趣旨を踏まえ、本年会のテーマを「糖質科学の深化と融合: 分子基盤から生体機能へ」といたしました。今回は一般口頭発表およびポスター発表のほかに、糖鎖などの構造と機能に関するシンポジウムも 3 つ準備しており、新たな知見を得る機会も多く用意しております。参加者の皆様にとって実りある議論と交流の場となることを心より願っております。本年会が糖質科学のさらなる発展に寄与する実り多き学術集会となるよう、尽力してまいります。

5. プログラム概要

【年会の構成】

1 プログラム・セッション

一般口頭発表 A、B、ポスター発表、奨励賞受賞講演、優秀講演賞第 2 次審査、特別講演(伊東 信先生、石田 秀治先生)、ダイバーシティ推進セミナー、シンポジウム「糖鎖プロファイリングと機能解析の深化に向けて」「糖鎖分析の最前線」「ケミカルバイオロジーを愉しむ」、ランチョンセミナー、企業展示、懇親会

2 講演要旨集

講演およびポスター発表のプログラムと要旨集を作成

【主要題目】

糖鎖の構造・機能解析、糖鎖の合成、糖鎖分析、糖鎖のケミカルバイオロジー、糖鎖の生合成・分解、糖鎖と病態・免疫、糖鎖と脳・神経、糖鎖と診断・治療、膜受容体・接着分子と糖鎖、レクチン、微生物と糖鎖、糖質の材料科学、糖鎖研究とバイオインフォマティクス、独創的な糖鎖研究、糖鎖研究成果の社会実装・産学連携

【日程表】

日程	午前	昼休み	午後
9月14日 (月)	優秀講演賞第2次審査	評議員会	総会、奨励賞受賞講演、口頭発表、シンポジウム
9月15日 (火)	口頭発表、ポスター討論	ランチョンセミナー	シンポジウム、口頭発表、特別講演、懇親会
9月16日 (水)	口頭発表、ポスター討論	ランチョンセミナー	シンポジウム、口頭発表、ダイバーシティ推進セミナー

* 予定は変更されることがあります。

6. 日本糖質学会ポスター賞および The Carbohydrate Research JSCR45 ポスター賞

従来の満 35 歳以下(7 月 1 日時点)を対象とした日本糖質学会ポスター賞に加えて、36 歳以上(7 月 1 日時点)を対象とする Carbohydrate Research 誌(エルゼビア)の名前を冠したポスター賞(The Carbohydrate Research JSCR45 Poster Award)を設けます。奮ってご応募ください。

7. 参加登録料

日本糖質学会名誉会員	無料
日本糖質学会永年会員	3,500 円(4,500 円) * 75 歳以上の永年会員は参加費免除
日本糖質学会正会員	8,000 円(10,000 円)
日本糖質学会学生会員	3,000 円(4,000 円)
非会員(一般)	10,000 円(12,000 円)
非会員(学生)	3,500 円(4,000 円)

※カッコ内は 2026 年 8 月 1 日以降の参加登録料です。

※共催・協賛・後援学会の会員は日本糖質学会会員と同額の参加登録料です。

8. 託児室について

会期中、託児施設を開設いたします。詳細は HP をご覧ください。

9. 懇親会

懇親会会場: 西鉄グランドホテル 〒810-8567 福岡県福岡市中央区大名 2-6-60

10. 宿泊先確保

日程表を参考に早めの宿泊先確保をお願いいたします。

「令和 8 年度日本糖質学会 総会」開催のお知らせ

会員各位

日 本 糖 質 学 会
会長 梶原 康宏

令和 8 年度通常総会を下記要領で開催いたします。
万障お繰り合わせの上、ご参集くださるようお願い申し上げます。

記

日 時: 2026 年 9 月 14 日(月) 午後

場 所: パピヨン 24 ガスホール

(〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代 1-17-1)

議 題: 1) 報告事項

- ① 会員数の推移
- ② 会議の開催
- ③ JSCR Newsletter の発行
- ④ 令和 8 年度・令和 10 年度年会
- ⑤ 第 29 回日本糖質学会奨励賞・第 8 回優秀講演賞・第 28 回ポスター賞

2) 審議事項

- ① 令和 7 年度収支決算ならびに監査報告
- ② 令和 8 年度予算
- ③ 永年会員の推戴

3) その他の議案及び報告事項

神奈木玲児先生を偲ぶ

名古屋大学糖鎖生命コア研究所 北島 健

本会永年会員の神奈木玲児先生は、2025 年 9 月 13 日にご逝去されました。享年 75 歳でした。神奈木先生は 1974 年に京都大学医学部医学科を卒業され、同大学医学部附属病院で研修医を務められたのち、1976 年に同大学大学院医学研究科博士課程(病理系)に入学されました。1981 年に博士課程を単位取得後中退されると、米国ワシントン大学附属 Fred Hutchinson Cancer Center の故箱守仙一郎教授のもとに留学されました。癌における糖脂質抗原とその生合成酵素に関する草分け的研究をされました。1983 年に帰国、京都大学医学部の助手になられ、医学博士(京都大学)を取得されました。1985 年に同大学医学部講師になられ、1991 年には愛知県がんセンター研究所病理学第二部(2000 年に分子病態学部と改称)の部長に就任されました。ご定年の 2010 年まで同研究所を代表する研究者として活躍されました。同年からは名古屋大学生物機能開発利用研究センターの客員研究員として、さらに 2011 年からは 9 年間にわたり台湾中央研究院生物医学科学研究所の特聘研究員として、癌関連糖鎖の研究を続けられるとともに、台湾においてはとくに若手研究者の育成にも貢献されました。

私は神奈木先生のことは、がん研究、とくに糖脂質に焦点を当てたマーカー探索とその生合成に関する高名な研究者として存じ上げておりましたが、神奈木先生のすごさを間近に拝見したのは、2002 年から開始した CREST 事業で神奈木先生が代表をされた「癌の進展における細胞接着性機能糖鎖の解明」の分担者をさせていただいてからです。例えば、神奈木先生の文章作成能力は尋常ではありません。申請書にしても学術書の著作にしても、私のような凡人では達成できない驚異的スピードで完成しておられました。お弟子さん達の研究成果を論文や学会発表にまとめあげるのも同様です。また勉強も怠らず、愛知県がんセンターを退職されてからも、論文を読むために名古屋大学の閲覧室に足繁く通われておられました。一体、いつ睡眠をとっておられるのだろうか、と何度も不思議に思いました。神奈木先生は、いつも囁くようにしゃべられますので常に温厚な方かと思うことが多いのですが、しっかりと主張される場面もあり、やはり科学に対してまっすぐに向き合う熱血漢であることを確認する瞬間となりました。思うに先生の頭の中はいつも整然としているため、お話を伺うとその内容がスッキリと頭に入ってくるという経験を何度もいたしました。実際、2001 年オランダのハーグで開催された international Symposium on Glycoconjugates のプレナリー講演で「Glycoconjugate ligands and regulation of selectin-mediated cell adhesion」を発表されました。このご講演は、悪性腫瘍細胞の特殊な糖鎖構造と細胞接着機能、生合成酵素の同定、さらに世界初の系統的な糖転移酵素の遺伝子発現制御機構までをまとめ上げた

大講演で、レベルの高いサイエンスが整然としたストーリーの中で展開されました。世界の研究者に未だに語り継がれる伝説の講演となりました。また、私の関わった先生の著作に 2020 年の名古屋大学出版の「糖鎖生物学」の III-8 章「癌と糖鎖」があります。



Academia Sinica の HP より

癌に関する全てが見事にコンパクトにわかりやすく理路整然とまとめられており、まさに名著と呼ぶに相応しい著作であると思います。神奈木先生は一匹狼的なところがあって、孤高を好まれるタイプにもみえることもありました。一方、とても暖かくお話をしてくださることも多々ありました。国際学会では奥様の國美様と一緒に来られることもあって、ご一緒して、先生の教養溢れるお話に心地よく耳を傾けたり、海外におけるいろいろな失敗談を楽しく語りあったりしたことが、とても懐かしく思い出されます。

神奈木先生の長年にわたる糖質科学への多大なるご貢献と、我々に対するフレンドリーシップに敬意と感謝の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

故神奈木玲児先生ご略歴

- 1974 年 京都大学医学部医学科卒業
- 1980 年 京都大学大学院医学研究科博士課程(病理系) 単位修得中退
- 1981 年～83 年 米国 Washington University Fred Hutchinson Cancer Center 研究員
- 1983 年 京都大学医学部助手
- 1985 年 京都大学医学部講師
- 1991 年 愛知県がんセンター研究所病理学第二部 部長
(2000 年に分子病態学部と改称)
- 2010 年 名古屋大学生物機能開発利用研究センター 客員研究員
愛知医科大学先端医学・医療研究拠点 客員教授
- 2011 年 台湾中央研究院生物医学科学研究所 特聘研究員
- 2020 年 台湾中央研究院生物医学科学研究所 名誉研究員

木幡陽先生を悼む

(元)公益財団法人 佐々木研究所 山下克子
埼玉医科大学 総合医療センター 古川 清

本学会名誉会員の木幡陽先生は2026年2月23日に急逝されました。まだまだ、お元気にお過ごし下さるとばかり思っておりましたので断腸の思いです。先生は1933年のお生まれで、1956年東京大学医学部薬学科を卒業され、1958年同大学院修士課程を修了された後、武田製薬工業(株)の研究所に勤務し、1962年母乳中の糖ヌクレオチドに関する研究で薬学博士の学位を授与されました。1967年に同研究所を退社され、米国NIHリュウマチ研究所のVictor Ginsburg博士のもとで母乳中のオリゴ糖の中に血液型A,B,H(O)やLewis(a),Lewis(b)などの血液型糖鎖抗原決定基を見出され、これらの生合成機構を世界に先駆けて酵素学的に明瞭に証明されました。1971年に神戸大学医学部第一生化学教室に教授として招聘された後、人乳中の分岐オリゴ糖(7-12糖)がA酵素の基質になる事を見出しそれらの構造を明らかにした事から、血液型研究分野のバイオニアとして世界に知られるようになりました。同時に、当時糖鎖生物学の黎明期にあって必須であった糖タンパク質糖鎖の微量定量分析法を確立され、糖鎖生物学の門戸を開く手法を築きました。その功績によって1986年東レ科学技術賞を授与されました。1982年東京大学医科学研究所の教授として移籍された後は(数年間は神戸大学と兼任)、主に機能性糖タンパク質糖鎖の機能との関わりに関する研究を展開されました。その間、1985年から1987年には名誉あるFogarty 研究員としてNIHに研究滞在され、1990-1992年には医科学研究所所長を務められました。それまでの長年の業績により、1992年には日本薬学会学術賞、日本学士院賞、アメリカ化学会 Claude S. Hudson 賞を受賞されました。退官後、1993-2000年まで東京都老人総合研究所所長を務められました。その後、国内外の学会、審議会の会頭、評議員、顧問をなされて、日本の糖鎖研究の発展に指導的役割を果たされ、2008年には瑞宝中綬章を授章されました。

1970年代初めは糖タンパク質のN-結合糖鎖の機能が示唆されるデータが蓄積しつつあったもののその実体は曖昧模糊としておりました。先生は糖タンパク質からN-結合糖鎖をエンドグリコシダーゼあるいは化学的に無水ヒドラジンで遊離し、 NaB^3H_4 還元標識して高感度で分析することに成功しました。400メッシュ以下のBioGel P-4から調製したゲルカラムクロマトグラフィーでトリチウム標識したオリゴ糖を分画し、非還元末端から各種エキソグリコシダーゼで逐次消化して配列を決定しました。これに微量メチル化を組み合わせることで結合位置を確定し、糖鎖の微量定量分析法を確立されました。先生は退官まで約20年間、これらの手法を一貫して駆使し、糖タンパク質N-結合糖鎖の生合成及び分解機構の解明のみならず、確固たる構造に基づいた糖鎖生物学の広範に及ぶ発展に大いに貢献されました。



1992年6月 木幡先生三賞(日本薬学会学術賞, 米国化学会Claude S. Hudson賞, 日本学士院賞) 受賞パーティーで

いくつか紹介しますと、糖鎖構造には種及び臓器特異性、ミクロ不均一性があることを明らかにされました。これらの糖鎖の特性に基づいて糖鎖の癌性変化はターゲット臓器固有の変化を示すことをAFP, CEA, hCG, γ GTP等で証明され、臨床の現場で予後の有用なマーカーとなっております。また、細胞の癌化に伴う形質膜糖タンパク質の高分子化がWarren-Glick現象として知られておりましたが、先生はこの現象が複合型糖鎖の高分岐化であり、特定の糖転移酵素の亢進による事を初めて酵素学的に証明されました。一方、糖鎖病理学の分野では先生がNIHリュウマチ研究所時代からの懸案であった慢性リュウマチ患者のIgG糖鎖解析に取りかかり、ガラクトース残基欠損現象を見出して、酵素学的背景及びFc領域の機能低下の発見から本疾患は遺伝的素因によることを示されました。さらに、N-結合糖鎖の機能に関する研究では血液凝固系、補体、細胞接着因子、ペプチドホルモン、サイトカイン、増殖因子等の各種機能性糖タンパク質の糖鎖構造と機能の相関を次々に解明されました。これらの研究は先生の名声を慕って国内外からの若手研究者がサンプルを携えて馳せ参じ、常に研究室のポテンシャルが維持され続けました。研究室のスタッフの努力と献身の下で研鑽を積んだ多くの大学院生、研究生は巣立ったそれぞれの場でリーダーシップを発揮し、日本の広い研究及び教育分野の向上に寄与しておられま

す。図らずも先生は研究者としてのみならず教育者としての喜びと足跡を残されることとなりました。

時には、先生は研究の合間に教室員と登山、スキー、ソフトボールに興じ、豪快に酒を酌み交わしながら研究の苦労話に花を咲かせておりました。また、先生は外国人の知己も数多く、研究室は常に訪問客で賑わい、特にオランダとフランスからの研究者は3ヶ月滞在して技術習得してその成果をJ.Biol.Chem.に共著者として発表致しました。一方では一週間滞在したある研究者に未発表のデータを流出してしまい、慌てて共著にして発表した経験も懐かしい思い出です。

以上のように先生の人生は一途に研究に捧げられた生涯でした。改めてご冥福をお祈り申し上げますと共に、糖鎖生物学の黎明期にその開拓に携わる幸運に恵まれたことに教室員一同深く感謝申し上げます。

参考文献

Kobata, A. (1992) Structures and functions of the sugar chains of glycoproteins. Eur. J. Biochem. 209, 483-501.
木幡陽(1992) 糖タンパク質糖鎖の癌性変化とその臨床応用。形質膜糖タンパク質の問題を中心に。薬学雑誌 112: 375-392.

第 23 回糖鎖科学コンソーシアム(JCGG)シンポジウム 開催予告

会期 2026 年 9 月 11 日(金)～12 日(土)

会場 名城大学薬学部(名古屋市天白区、市営地下鉄八事駅より徒歩 5 分)

世話人 山田修平(世話人代表、名城大学)、竹松 弘、木塚康彦、原田陽一郎、北川裕之

実施概要

この度、第 23 回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウムが、「糖質研究の軌跡と未来:次世代への橋渡し」を主要テーマに、名城大学薬学部(名古屋市天白区八事キャンパス)において開催されます。

長年にわたって日本の糖質科学分野を牽引されてきた谷口直之先生、川寄敏祐先生というお二人のレジェンド研究者による特別講演から、第一線で活躍する多彩な糖質分野の研究者による数々の最新状況についてのご講演をお聞きいただけます。有機化学合成、植物・微生物の多糖、プロテオグリカンの研究から疾病との関連研究、創薬まで、学際的に広がる最新成果を共有します。

また、単なる情報共有にとどまらず、多様な視点をもつ参加者同士が交流し、新たな連携や価値創出につながる場となることを目指し、当日は、皆様が気軽に意見交換できるコーヒープレイクや懇親会も行います。これまでの糖質研究の軌跡を振り返りつつ、分野を越えた対話を通じて、糖質科学の未来、次世代への橋渡しをともに考える機会となれば幸いです。

・**懇親会**:名城大学薬学部新 1 号館 2 階ダイニングハープ

・**シンポジウム ウェブページ**:日本糖鎖科学コンソーシアムのトップページ(<http://www.jcgg.jp>)のシンポジウム・バナーよりアクセスください。

・**問い合わせ先** 第 23 回 JCGG シンポジウム 事務局(梅谷内 晶 他)

・**E-mail**: sympo-23@jcgg.jp

第 28 回国際複合糖質シンポジウム (Glyco28) 開催のご案内

Glyco28 会頭 鈴木 匡

(理化学研究所 開拓研究所 鈴木糖鎖代謝生化学研究室 主任研究員)

2027 年 8 月 1 日から 6 日にかけて、千葉県・幕張メッセにて「第 28 回国際複合糖質シンポジウム (Glyco28; The 28th International Symposium on Glycoconjugates)」を開催いたします。本シンポジウムは 1964 年に第一回が開催された、糖鎖生物学分野において最も歴史ある国際会議です。日本での開催は、1981 年の東京 (会頭: 山川民夫)、1999 年の東京 (会頭: 木幡陽) 以来、実に 28 年ぶり 3 回目の開催となります。

本シンポジウムは、糖鎖生物学 (Glycobiology) および糖鎖化学 (Glycochemistry) の最前線で活躍する世界中の研究者が一堂に会し、2 年に 1 度開催される会議です。IGO Hakomori Award 講演を皮切りに、最新のトピックスを網羅したパラレルセッションやポスター発表を通じ、対面での深い議論と交流の場を提供いたします。国内の糖質科学研究者、特に若手研究者にとって、世界トップクラスの知見に触れ、国際的なネットワークを広げる絶好の機会となることを確信しております。ぜひ積極的に参加をご検討いただければ幸いです。



本会議のテーマとしては、“Glycoscience has no borders” を掲げております。近年世界をとりまく状況はますます不安定なものになってまいりましたが、本会議が、すべての軋轢を超えて、純粋に糖質科学に勤しみ、交流を深める場になればと願って止みません。

2027 年度は本会議の開催のため、過去の例に倣って当年度の年会の開催はありません。日本糖質学会員の皆様におかれましては、ぜひ今から日程 (2027 年 8 月 1 日～6 日) を確保いただき、本大会を盛り上げていただけますと幸いです。幕張で皆様とお会いできることを楽しみにしております。

会期: 2027 年 8 月 1 日 (日)～6 日 (金)

会場: 幕張メッセ 国際会議場 〒261-8550 千葉県千葉市美浜区中瀬 2 丁目 1

URL: <https://www.congre.co.jp/glyco2027/>

Plenary Speakers

Harry Brumer (University of British Columbia, Canada)

Xing Chen (Peking University/Beijing Normal University, China)

Robert S. Haltiwanger (CCRC/University of Georgia, USA)

Kasper Locher (ETH Zurich, Switzerland)

Kazutoshi Mori (Meijo University, Japan)

Magali Remaud-Simeon (Toulouse Biotechnology Institute, France)

Chihiro Sato (iGCORE, Nagoya University, Japan)

Hans H. Wandall (University of Copenhagen, Denmark)

Chi-Huey Wong (The Scripps Research Institute, USA)

Sho Yamasaki (RIMD/IFReC, The University of Osaka, Japan)

JSCR Newsletter（日本糖質学会会報）Vol. 30, No. 1

2026年7月10日 発行

編集兼発行 日本糖質学会

会長 梶原 康宏

〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-38-12
油商会館3F

TEL: 03-5642-3700

FAX: 03-5642-3714

JSCR Newsletter 編集委員会

川崎 ナナ

山口 芳樹